

論 説
今年も残すところ1ヵ月。いよいよ灯油商戦の本番に入るが、気象局が21日公表した直近1ヵ月予報は「全般的に寒気の影響が弱いため気温は高い」、25日発表の直近3ヵ月予報も「向こう3ヵ月の気温は全般的に平年並みか少ない」とされ、いまどきの特需は見込めそうもない。昨シーズンは記録的な暖冬に見舞われ、2018年度の灯油需要は前年度対比マイナス12%の1450万キロまで激減。ビックを付けた2年度の3月年率0.2%減とほぼ横ばい

で、SS関連主力油種では軽油の需要は前年度対比マイナス9%の1450万キロまで激減。ビックを付けた2年度の3月年率0.2%減とほぼ横ばい

灯油を供給し続ける自信

と半減状態に陥った。気象による振幅が大きい季節商品ことは、残念ながら「灯油離れ」は加速している。資源エネルギー省は、灯油は大手よりも小規模店のほうが販売構成比が高い。灯油は場地業者の経営を左右する大事な商材である。

一方、昨シーズンは11月の店頭全国平均価格が約98円と割

り、10道県で横ばいと

なった。ハイオクは0.3円高

で、小売平均価格は147円と

上り、北海道は147円と

上がった(累計0.4%増)

。一方、北海道は147円と

上がった(累計0.4%増)

